

2018 DISCLOSURE

JA福岡信連の現況

J 組
A 合
バ 員
ン 地
ク 域
福 から
岡 必要
の と
確 され
立 る



CONTENTS

目次

ごあいさつ	1
JA福岡信連TOPICS	2

I 経営

JAグループ・JAバンクの概要	4
経営理念と経営方針	6
「JAグループ自己改革」実践状況	7
平成29年度業績ハイライト	8
リスク管理について	10
コンプライアンスについて	13
社会的責任と地域貢献活動	18

II 事業

業務のご案内	28
各種手数料一覧	32

III 組織

組織と機構	34
沿革・歩み	36

IV 資料編

貸借対照表	38
損益計算書	39
キャッシュ・フロー計算書	40
剰余金処分計算書	40
注記表	41
財務諸表の適正性等にかかる確認	53
損益の状況	54
貯金に関する指標	56
貸出金等に関する指標	57
有価証券等に関する指標	62
有価証券等の時価情報等	64
経営諸指標	65
受託業務・為替業務・証券業務等	67
自己資本の状況	68
信用リスクに関する事項	71
信用リスク削減手法に関する事項	74
派生商品取引および長期決済期間取引のリスクに関する事項	75
証券化エクスポージャーに関する事項	76
オペレーショナル・リスクに関する事項	79
出資等エクスポージャーに関する事項	80
金利リスクに関する事項	81
役員等の報酬体系	82

索引	83
----	----

- ・DISCLOSURE(ディスクロージャー)資料とは、業務や財務などの経営内容を公に開示する資料のことで、
- ・本冊子は農業協同組合法第54条の3に基づいて作成しております。
- ・金額は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しています。



ごあいさつ

皆さまには、平素より福岡県信用農業協同組合連合会（JA福岡信連）ならびにJAバンク福岡をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

この度、当会へのご理解を一層深めていただくために、経営方針や業績ならびに1年間の活動状況をご紹介します「JA福岡信連DISCLOSURE2018」を作成しました。ご一読いただければ幸いに存じます。

さて、平成29年度の農業情勢は、高齢化・後継者不足等に伴い、家族経営体が大きく減少している中、一般企業による農業分野への新規参入や農業法人の増加等により、農業経営の大規模化がさらに進んでいます。また、日米FTAや日EU経済連携協定（EPA）等の国際貿易交渉について、国内の農業者からは、TPP11での大幅譲歩のような国内農業に大きな打撃を与える協定を締結するのではないかという不安や心配の声が出ており、予断を許さない状況にあります。

また、金融面では、平成29年半ばまでは、世界的に緩やかな景気回復と低金利が併存する「適温相場」が続いていましたが、平成30年に入り、米国の通商政策の行方や利上げ加速、北朝鮮等の地政学リスク等の影響等により、国内金融市場は不安定な状態が続いています。このような中、金融機関は、平成28年2月の日銀マイナス金利政策の導入以降、貸出金利や国債利回り低下に伴う利ざやの縮小等により収益低下が見込まれることから、今後、生き残りを賭けた再編がより一層加速していくものと予想されます。

こうした中、JAグループは、自らの「JAグループ自己改革」を策定し、基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の達成に向けて一丸となって取組みを進めています。

当会におきましては、組織・事業を取り巻く環境が激変する中で、平成29年度は、中期3カ年計画（平成28年度～平成30年度）の経営方針である「JAと信連の一体的事業戦略による『組合員・地域から必要とされるJAバンク福岡の確立』」の達成に向けて確実な実践に努め、会員はもとより地域の皆さまのご支援・お引き立てにより所期の目標を達成することができました。

今後とも、会員ならびに地域の皆さまに質の高いサービスをご提供できるように努めてまいります所存でございます。

引き続き、皆さまの一層のご支援・お引き立てを賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成30年7月

経営管理委員会会長

おに き はる と
鬼木 晴人

代表理事 理事長
なか の ひろ ゆき
中野 裕之

JA福岡信連 TOPICS

～地域密着型金融への取組み～

TOPICS

1

「JAバンク福岡 農業所得増大・地域活性化 応援プログラム」の実践

JAバンク福岡は、農業所得増大と地域活性化に対する踏み込んだ対応をしていくため、「JAバンク福岡 農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を創設し、担い手の生産拡大・生産コスト削減に直接寄与する施策や新規就農者への支援、地域におけるJA企画への支援を行っております。

- 農業経営にかかる金融負担軽減に資する支援
- 農産物および加工品の販売強化にかかる支援
- 将来の担い手（新規就農者）確保にかかる支援
- 体制整備・JA独自企画等にかかる支援

詳しくは ▶ P7

TOPICS

2



JAバンク福岡定期積金 「食の恵み」の販売

福岡県産農産物の消費拡大およびJAの特色を活かした地域活性化を目的として、県内各地域の農産物を懸賞品とした定期積金「食の恵み」を販売しました。

詳しくは ▶ P7

TOPICS

3

「JAグループ福岡 担い手総合サポート センター」の設置・取組み

JAグループ福岡では、JAグループ自己改革に掲げる「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を確実に実践するため、平成28年4月1日に中央会・信連・全農ふくれんの共通機構として、「JAグループ福岡担い手総合サポートセンター」を設置しました。

本センターでは、JAの出向く体制整備の支援や、担い手経営体・大規模法人等に対する事業支援、会計・税務支援、体制支援、総合的な経営支援等に取り組んでいます。

詳しくは ▶ P20

TOPICS

4

国内外における商談会による 販路拡大・6次産業への支援

国内および海外で農産物や加工品を出品するJAや農業法人に対し、各地域で開催される商談会などへ参加を促進する支援を行いました。

詳しくは ▶ P22



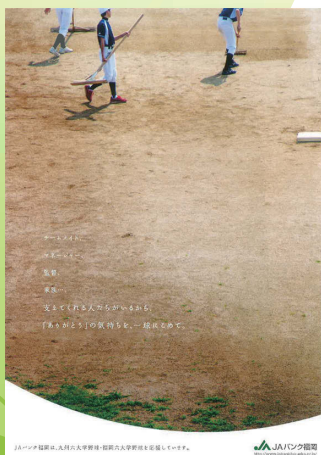
TOPICS

5

スポーツを通じた 地域密着の取組み実施

JAバンク福岡では、市町村対抗「福岡駅伝」への特別協賛や地元大学野球リーグ戦への協賛等、スポーツを通じて地域貢献に取り組みました。

詳しくは ▶ P27



JAグループ・JAバンクの概要

JAグループの仕組み

※JAとは、Japan Agricultural Cooperatives の略

JAとは、地域・自然を大切に「農業協同組合」の愛称で、信用事業、共済事業、経済事業、指導事業など様々な事業を行っています。

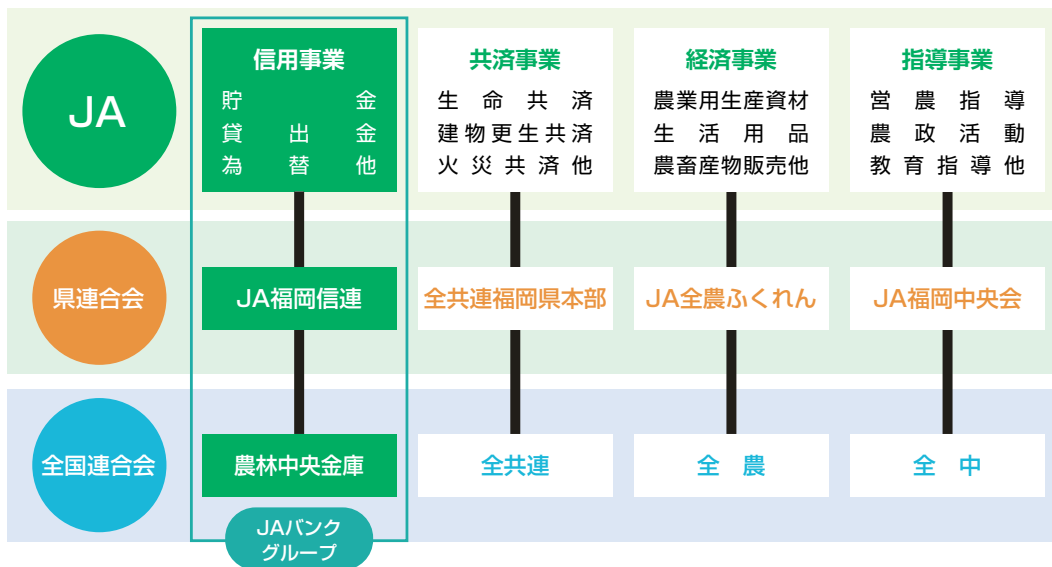
JAは、その機能を十分に発揮し、さらに発展していくために、市町村段階のJAから都道府県・全国段階へとつながるJAグループを組織しています。

このうち、信用事業を総称して「JAバンク」と呼んでおり、貯金、融資、振込・口座振替などのニーズに応えることはもちろん、JAグループ全体のネットワークと総合力で、組合員および利用者の皆さまにより身近で、より便利なメインバンクとなることをめざしています。

当会は、信用事業を行う都道府県段階の連合会組織として、福岡県内JAの事業運営をサポートするとともに、県域をエリアとする農業専門金融機関として、かつ協同組織の地域金融機関として県内JAと一体となって、組合員および利用者の皆さまから信頼される事業運営に努め、地域の農業および経済の発展に貢献していきます。

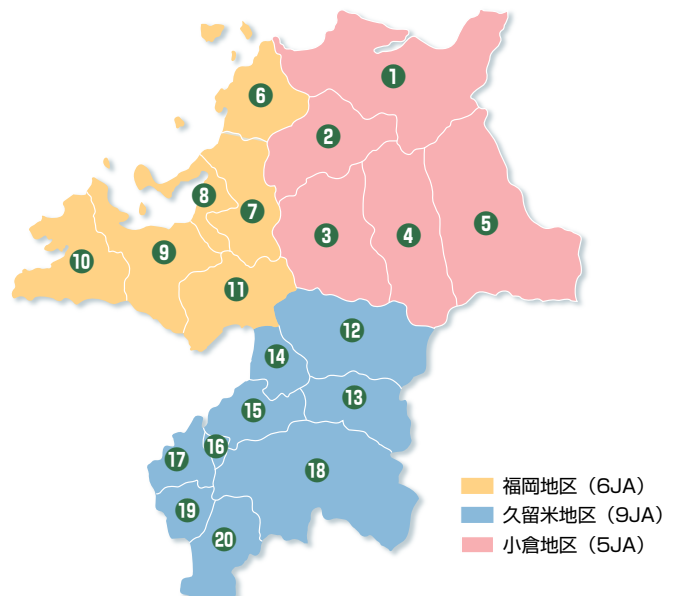
— JAグループの仕組み

組合員および利用者の皆さま 県内JAの正・准組合員数 356,181名 (平成30年3月31日現在)



JAバンク福岡のネットワーク

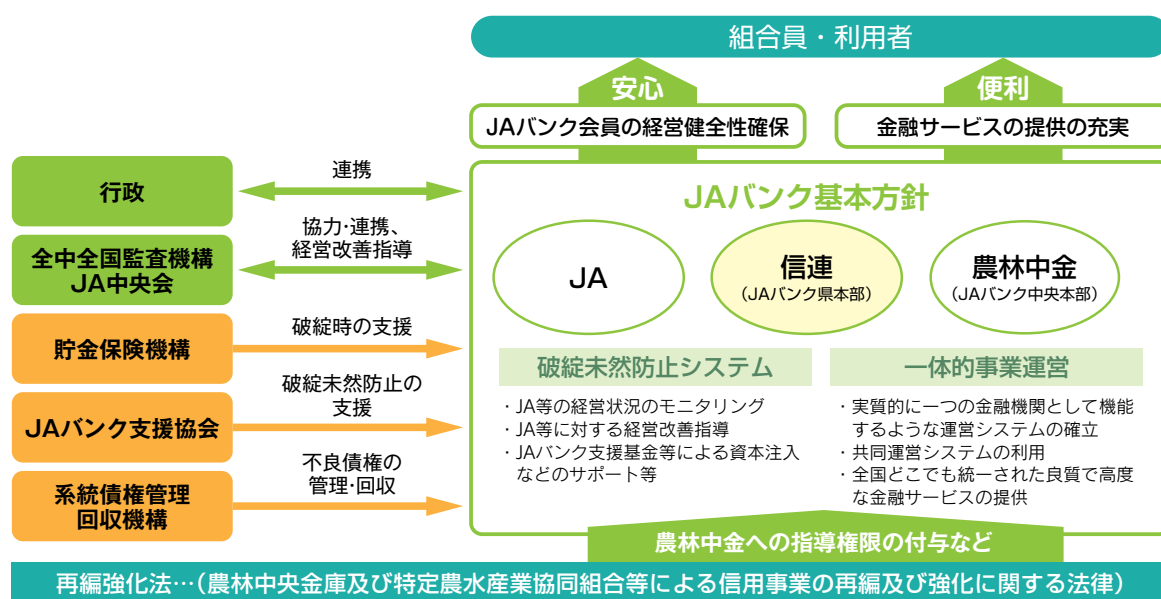
- JA名
- | | |
|----------|----------|
| ① 北九 | ⑪ 筑紫 |
| ② 直鞍 | ⑫ 筑前あさくら |
| ③ ふくおか嘉穂 | ⑬ にじ |
| ④ たがわ | ⑭ みい |
| ⑤ 福岡京築 | ⑮ くるめ |
| ⑥ むなかた | ⑯ みづま |
| ⑦ 粕屋 | ⑰ 福岡大城 |
| ⑧ 福岡市東部 | ⑱ ふくおか八女 |
| ⑨ 福岡市 | ⑲ 柳川 |
| ⑩ 糸島 | ⑳ みなみ筑後 |



JAバンクシステム

万全の体制で組合員・利用者の皆さまに、より一層の「安心」と「便利」をお届けします。

「JAバンクシステム」とは、JAバンク会員（JA、信連、農林中金）の総力を結集し、実質的にひとつの金融機関として活動し、JAバンク全体としての信頼性の確保（破綻未然防止システム）と、良質で高度な金融サービスの提供（一体的事業運営）を2つの柱として、組合員および利用者の皆さまにより一層の「安心」と「便利」をお届けするシステムです。



JAバンク・セーフティネット

「JAバンク・セーフティネット」で、より一層の「安心」をお届けします。

より安心な金融機関としての信頼を得るために、JAバンクは「セーフティネット」を構築しています。

第一は、貯金者等保護のための公的な制度である「貯金保険制度」、第二は、JAバンクの独自制度でJAバンクの健全性を確保し、JA等の経営破綻を未然に防止する「破綻未然防止システム」です。

この2つの仕組みにより、組合員および利用者の皆さまにより一層の安心をお届けしています。

JAバンク・セーフティネットのイメージ

貯金者を保護するための公的な制度

貯金保険制度

- ・決済用貯金（無利息、要求払い、決済サービスを提供できること）に該当するものは全額
- ・それ以外の貯金などは、1農水産業協同組合ごとに貯金者1名あたり元本1,000万円とその利息などの合計額



JAバンクの独自制度

破綻未然防止システム

- ・経営の健全性確保にかかる自主基準の設定
- ・経営状況のチェックによる問題点の早期発見と改善
- ・「JAバンク支援基金」による資本注入や資金援助

経営理念と経営方針

経営理念

当会は、農業専門金融機関として、かつ協同組織の地域金融機関として、会員・利用者ならびに、地域の皆さまの期待と信頼に応えるJAバンクをめざして事業に取り組んでいます。

**私たちは、農業と地域に根ざした金融機関として、
県下JAとともに、福岡県農業の振興と豊かな地域社会づくりに貢献します。**

中期経営計画

当会は、平成28年度を初年度とする中期3ヵ年計画（平成28年度～平成30年度）を策定し、計画達成に向けて取組みを進めました。

経営方針

JAと信連の一体的事業戦略による「組合員・地域から必要とされるJAバンク福岡の確立」

経営目標

- JA事業目標：「JAバンク福岡中期戦略」の目標とする。
- 信連収益目標：経常利益35億円以上の確保をめざす。
- 利益還元目標：貯金奨励金0.46%、普通出資金2.0%、後配出資金1.0%、特別配当金0.05%の利益還元をめざす。
- 自己資本目標：「自己資本計画」に基づき、内部留保等による自己資本の充実をめざす。

経営戦略

1. 農業・生活メインバンクの確立とJA事業運営・経営管理態勢の強化(JAバンク自己改革の実践)
2. 運用力の強化と健全経営の確立
3. 業務運営の安定継続と組織力の向上、経営管理態勢の充実

行動指針

当会は、経営方針・経営目標の実現に向けて業務に取り組んでいます。

- ① 私たちは、自己啓発に努め、能力と感性を高めます。**
- ② 私たちは、新しい発想を追求し、高い目標をめざします。**
- ③ 私たちは、情報を共有化し、組織力の強化を図ります。**

「JAグループ自己改革」実践状況

JAグループ自己改革への取組み

当会では、農業・農協改革の趣旨を踏まえ、JAグループ自己改革に掲げる「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に資する支援を目的として、平成28年度より3年間（平成28年4月1日～平成31年3月31日）に亘り取組みを行っています。

●「JAバンク福岡 農業所得増大・地域活性化応援プログラム」の取組み

平成29年度は農業関連資金の保証料助成や農産物等の販売強化を目的とした県下JAの商談会への出展支援・直売所強化・CS調査支援等に取り組みました。

■ JAバンク福岡 農業所得増大・地域活性化応援プログラム

	内 容
保証料等助成支援事業	○農業近代化資金やJA農機ハウスローン等の保証料助成
商談会支援事業	○海外商談会・海外営業商談 ブース代（テナント料等）、通訳代、旅費交通費・宿泊費（上限2名）、アテンド費等に対する費用の一部助成 ○国内商談会 ブース代（テナント料等）に対する費用の一部助成
直売所強化支援事業	○冷蔵ショーケースの増設 ○クレジット端末機の新設および売り場増床工事 ○製氷機の新設および携帯POS等の導入 ○直売所の新設・増設 等
担い手確保支援事業	○新規就農者営農支援 ○新規就農研修支援
JA独自企画支援事業	○耕作放棄施設の補修および当該施設を研修施設へ再利用 ○耕作放棄地等の農作業受託に伴うコンバイン購入 ○小学生等への食農教育（田んぼアート） ○新たな食農イベントの開催 ○加工施設の移設 等

●「食の恵み」の提供

福岡県産農産物消費拡大を目的に、地域農産物を懸賞品とした定期積金「食の恵み」を販売することにより、他金融機関との差別化・地域住民へのJA認知度・好感度向上に取り組みました。

●オンラインキャッシュの導入

JAが営農経済事業に全力投球できる環境を整備するために、県下JAの全店舗にオンラインキャッシュの導入・指導を行い、店舗営業力強化および事務効率化を図りました。



定期貯金「食の恵み」

平成29年度業績ハイライト

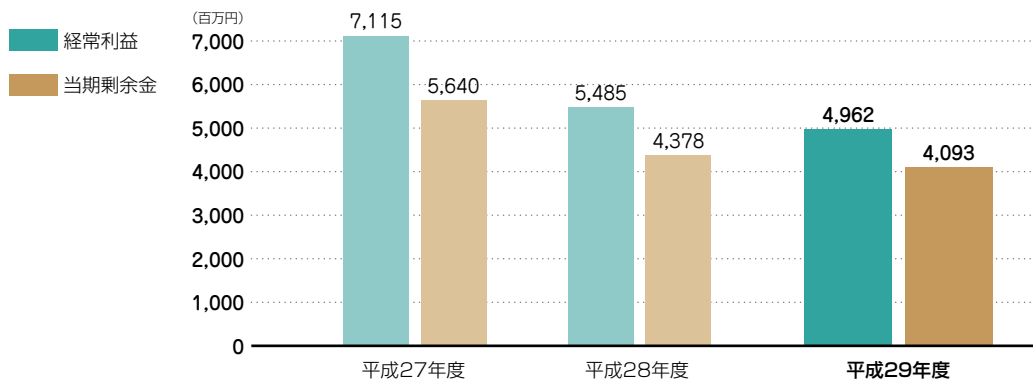
(単位：百万円)

業績の状況

会員や利用者の皆さまの信頼に応えるため、効率的な資金運用や経営の合理化・効率化に努め、平成29年度は当期剰余金を40億円計上しました。

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。また、百万円未満の残高がある場合は「0」で表示し、残高が無い場合は「-」で表示しています。以下の各計数についても同様です。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収益	20,598	20,216	20,062
経常費用	13,482	14,731	15,100
経常利益	7,115	5,485	4,962
特別利益	-	-	-
特別損失	-	2	0
税引前当期利益	7,115	5,482	4,962
法人税等	1,464	1,049	863
法人税等調整額	10	55	4
当期剰余金	5,640	4,378	4,093

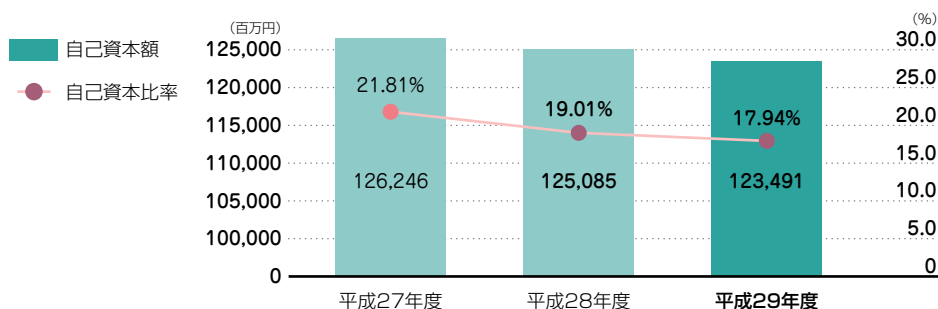


自己資本比率の状況

当会では、多様化するリスクに対応するとともに、会員や利用者の皆さまのニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題と位置づけ、「自己資本充実計画（平成28年度～30年度）」に基づき、バーゼルⅢの適用内容を勘案した自己資本対策としての内部留保の積み上げ等に取り組んだ結果、平成30年3月末の自己資本額は、1,234億円となりました。また、自己資本比率は、17.94%となり、安全基準とされる国内基準の4%および海外での金融業務基準である8%を大きく上回り、高い健全性・安全性を確保しています。

(単位：百万円)

バーゼルⅢ	平成27年度	平成28年度	平成29年度
自己資本額	126,246	125,085	123,491
コア資本に係る基礎項目の額	126,247	125,086	123,492
コア資本に係る調整項目の額	0	1	1
リスク・アセット	578,762	657,659	687,997
自己資本比率	21.81%	19.01%	17.94%



主要勘定の状況

●貯金

貯金は、会員JAの貯金等の増加により2兆1,358億円となりました。

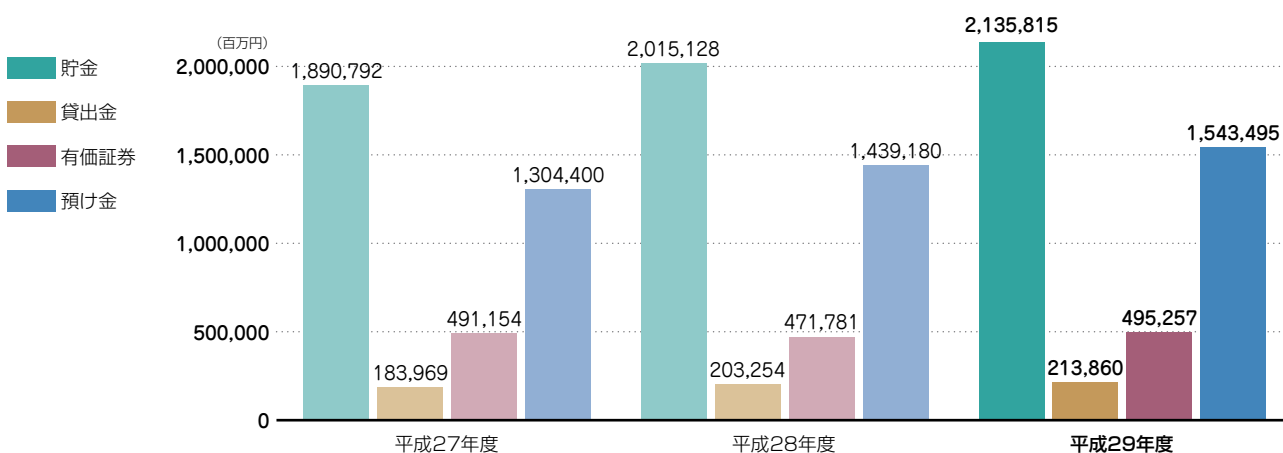
●貸出金

貸出金は、金融機関との金利競争の激化が続く中、農業関連企業を中心に、県内企業の融資取引基盤の維持・拡充を図り、県外の大手優良企業、地方公共団体向け融資に積極的に取り組み、2,138億円となりました。

●有価証券・預け金

有価証券は、中長期的な安定収入確保のため、安全資産（国債等）中心のコアポートフォリオ構築を図る一方、超低金利の環境下で慎重な運用に努めたことから、4,952億円となりました。

また、預け金は、安定的収益を確保しながら流動性リスクの軽減を図るため、農林中央金庫への預け金を中心とした効率運用に取り組み、1兆5,434億円となりました。



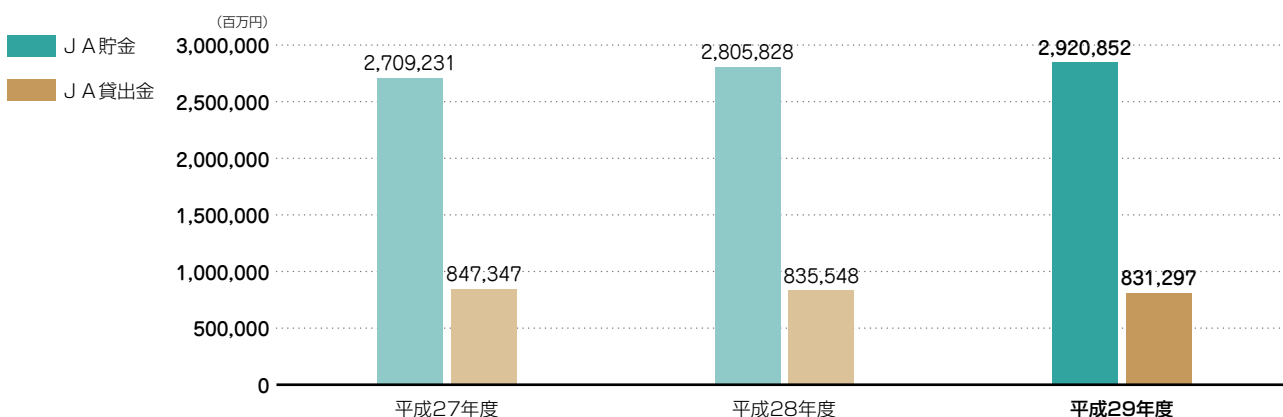
JA貯金・貸出金の状況

●JA貯金

JA貯金は、個人貯金純増を目的とする定期貯金各種キャンペーンや、定期積金獲得推進、年金口座指定および給振獲得推進等の取組みにより、個人貯金が2兆4,983億円となり、JA貯金全体では2兆9,208億円となりました。

●JA貸出金

JA貸出金は、農業融資残高シェアの維持・拡大に向けて、農機ハウスローンを中心に推進を行い、また、利用者メイン化に向けた住宅関連ローンの取組強化や小口ローンの推進活動等によりJA貸出金全体では8,312億円となりました。

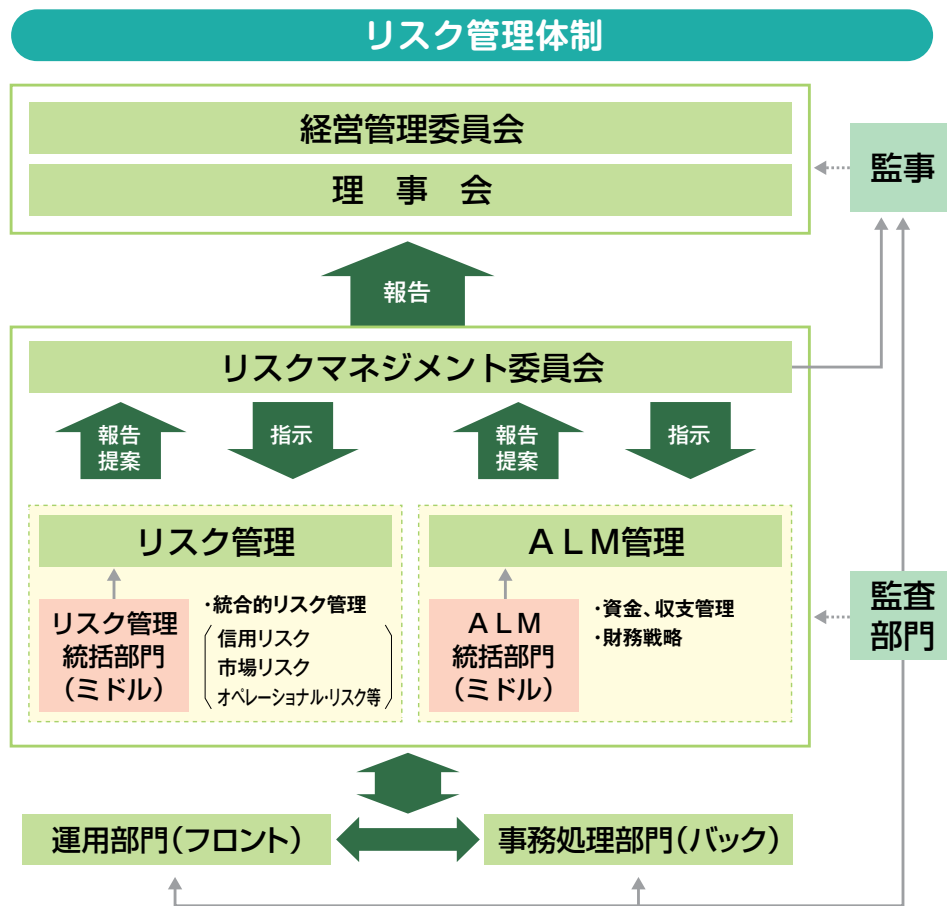


リスク管理について

リスク管理の取組み

金融を巡る環境の変化に伴い、金融機関が引き続き高い信頼性を維持していくためには、有効な内部管理態勢を確立し、直面している様々なリスクに適切に対応する能力を高めていくことが必須となっています。

当会では、系統金融機関として、経営の健全性や安全性を維持するとともに、安定的な収益を確保するため、リスク管理を経営上の最重要課題のひとつと位置付け、経営管理委員会にて決定する「リスク管理の基本方針」に基づき、理事長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を中心として、「統合的なリスク管理体制」の構築に取り組んでいます。



● リスクマネジメント委員会

本委員会は「リスク管理の基本方針」に基づき、経営に内包するリスクを統合的に管理するとともに、リスク運営を踏まえたALM管理による安定的な収益確保を図るため、総合的な資金運用機能の実践により、適切な経営の判断に資することを目的としています。

● リスク管理

経営の健全性・安定的な収益の確保を図るため、また、当会の業務等から発生するリスクを適切に管理するため、個々のリスク管理はもとより経済資本管理、統合的リスク管理に努めています。

● ALM管理

金融機関の資産・負債は金利変動等の影響を大きく受ける構造に変化していますが、当会では、資産および負債のバランスを考慮し、それぞれから発生するリスクを適正な水準に保ち、収益の安定化や最大化を図ることにより、財務の健全性維持と安定的な収益確保に努めています。

具体的には、国内外の経済情勢を把握するとともに、金利予測分析等により金融情勢の変化に柔軟に対応できる財務内容の構築に努めています。

※ALMとは、Asset Liability Management の略

各種のリスク管理

信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産の価値が減少ないし消失して損失を被るリスクのことです。

当会は、「統合的リスク管理要領」を定め、保有資産の信用リスク量を計測することによりポートフォリオ全体のリスクバランスをコントロールすることや与信先の内部格付等を実施し、適切な管理に努めています。

市場リスク管理

市場リスクとは、金利、有価証券等の価格、為替等の様々な市場リスク・ファクターの変動により、保有する資産・負債の価値が変動し損失を被るリスクのことです。

当会は、「統合的リスク管理要領」を定め、保有資産・負債の市場リスク量を計測することにより、ポートフォリオ全体のリスクバランスをコントロールすることや市場環境変化等へのモニタリングを実施し、適切な管理に努めています。

流動性リスク管理

流動性リスクとは、運用と調達の間隔のミスマッチや予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になるリスク（資金繰りリスク）や市場の混乱等により市場において取引ができなくなるリスク（市場流動性リスク）などの損失を被るリスクのことです。

当会は、「統合的リスク管理要領」を定め、「ALM管理」の中で、的確な資金動向の把握により流動性を確保することや市場混乱の発生原因等の分析・評価を行い、適切な管理に努めています。

オペレーショナル・リスク管理

オペレーショナル・リスクとは、金融機関の業務の過程、役職員の活動若しくはシステムが不適切であることまたは外生的な事象により損失を被るリスクであり、「事務リスク」、「システムリスク」、「法務リスク」等の損失を被るリスクのことです。

当会は、「統合的リスク管理要領」を定め、事業継続計画・自主検査の実施等により個別リスクの未然防止やリスク情報の一元管理、リスクの分析・評価を行い、適切な管理に努めています。

■ 事務リスク

業務の過程または役職員の活動が不適切であることにより、損失が発生するリスク。

具体的には、規程等に不備があり適切な処理が行われずに事故・不正等が発生することにより損失を被るリスク。

■ システムリスク

コンピュータシステムのダウン、誤作動、システム不備等に伴い金融機関が損失を被るリスク。

■ 法務リスク

経営判断や個別業務の執行において、法令違反や不適切な契約締結等に起因し、損失が発生したり、取引上のトラブルが発生するリスク。

事業継続計画書(BCP)について

※BCPとは、Business Continuity Plan の略

事業継続計画は、大地震等の自然災害やシステム障害等、不測事態が発生した場合の被害を想定し、当社の事業継続を図り、問題箇所の迅速な復旧を行うことにより、会員、取引先への影響を最小限に抑えることを目的としています。

このため、事業継続計画においては、体制整備、事業継続策の発動基準の設定、継続業務の特定、事前対策としての平時対応、災害等発生時の初動時ならびに継続対応、被災JAからの要請に基づくJAバンク相互連携、JA・マスコミ・行政への対応等について定めています。

統合的リスク管理

「統合的リスク管理」とは、直面するリスクに関して、自己資本比率の算定には含まれないリスク（与信集中リスク、金利リスク等）を含めて、それぞれのリスクカテゴリーごとに評価したリスクを総体的に捉え、経営体力（自己資本）と比較・対照する自己管理型のリスク管理をいいます。

当社は、「統合的リスク管理要領」を定め、「統合リスク管理」として各種リスクをVaR（バリュー・アット・リスク）等の統一的尺度で計測し、各種のリスクを統合（合算）して経営体力（自己資本）と対比して管理を行っています。

経済資本管理

「経済資本管理」とは、「内部管理上の自己資本管理」であり、リスクを共通の枠組みによって統合的に把握し、経営体力を示す自己資本（経済資本）に見合ったリスク量にコントロールするとともに、保有資産の収益性・効率性の向上をめざすことです。

当社は、自己資本を基本に「配賦経済資本」を設定のうえ、有価証券運用部門、預金運用部門および融資部門の3部門に配賦し、月次でのモニタリング・管理を行っています。

貸出運営について

当社では、農業専門金融機関として農業基盤の安定・強化をめざした農業融資の拡充に努めるとともに、地域金融機関の一員として、地域の様々な資金ニーズに応え地域の発展に寄与できるよう取り組んでいます。

審査体制について

当社では、1次審査部署（融資営業部）と2次審査部署（リスク審査部）に分離し、内部牽制機能の確保に努めています。具体的には、1次審査部署では、新規アプローチした取引先や既取引先からの借入申込案件、条件変更について財務分析等を踏まえた貸出審査を行い、2次審査部署では、1次審査部署で起案された貸出案件や条件変更案件を、貸出規程・要領等との整合性の検証を含め総合的に分析し、厳格な審査に取り組んでいます。

なお、必要に応じ「金融円滑化協議会」において、金融円滑化にかかる対応の適切性等に関することを協議しています。

内部監査体制について

当社では、内部監査部門を被監査部門から独立して設置し、経営諸活動の全般にわたる管理・運営の制度および業務の遂行状況を、内部管理態勢の適切性と有効性の観点から検証・評価し、その結果に基づく情報の提供および改善・合理化への助言・提案等を通じて、経営の健全性の確保および経営効率の向上に努めています。

コンプライアンスについて

コンプライアンスの取組み

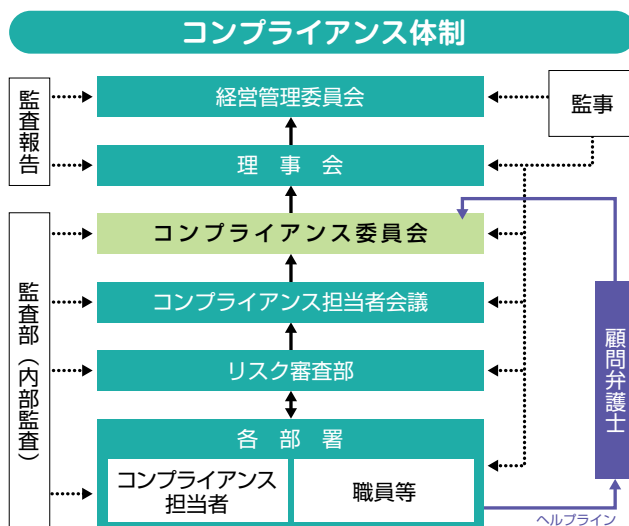
当会では、系統金融機関としての公共的使命と社会的責任を果たすため、コンプライアンスを経営上の最重要課題として位置付け、経営管理委員会にて決定する「コンプライアンス基本方針」に基づき、理事長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を中心に、全役職員が「コンプライアンス・プログラム」等の取組みを実践しています。

コンプライアンス基本方針

1. 当会の社会的責任と公共的使命の認識
当会のもつ社会的責任と公共的使命を認識し、健全な事業運営の徹底を図ります。
2. 会員、利用者および地域のニーズに適した顧客本位で質の高い金融等サービスの提供
「JAバンクシステム」の一員として、顧客本位のサービス提供により、会員や利用者のニーズに応えるとともに、市民生活や業務運営に脅威を与えるサイバー攻撃、自然災害等に備えたセキュリティレベルの向上や災害時の業務継続確保により質の高い金融および非金融サービスの提供並びに「JAバンク基本方針」に基づく指導等を通じて、県下JA系統信用事業を支援することによりその役割を十全に発揮し、会員・利用者および地域社会の発展に寄与します。
3. 法令やルールの厳格な遵守
すべての法令やルールを厳格に遵守し、社会的規範に反することのない、公正な事業運営を行います。
4. 反社会的勢力の排除、テロ等の脅威への対応
社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨み、これを断固として排除します。また、国際社会がテロ等の脅威に直面しているなか、マネー・ローンダリング対策およびテロ資金供与対策の高度化に努めます。
5. 透明性の高い組織風土の構築とコミュニケーションの充実
経営情報の積極的かつ公正な開示をはじめとして、系統内外とのコミュニケーションの充実を図りつつ、真に透明な経営の重要性を認識した組織風土を構築します。
6. 職員の人権の尊重等
職員の人権、個性を尊重するとともに、健康と安全に配慮した働きやすい環境を確保します。
7. 環境問題への取組み
資源の効率的な利用や廃棄物の削減を実践するなど、環境問題に積極的に取り組みます。
8. 持続可能な社会貢献活動への取組み
当会が社会の中においてこそ存続・発展し得る存在であることを自覚し、社会の一員として、地域社会等と連携し、すべての人々の人権を尊重しつつ環境問題等の社会的課題への対応に努め、社会と共に歩む「良き企業市民」として、積極的に持続可能な社会貢献活動に取り組みます。

●コンプライアンス委員会

本委員会は、「コンプライアンスにかかる基本方針と遵守基準」に基づき、コンプライアンス体制全般にかかる企画、進捗管理、その他重要事項等に関する検討・審議を行うことを目的としています。

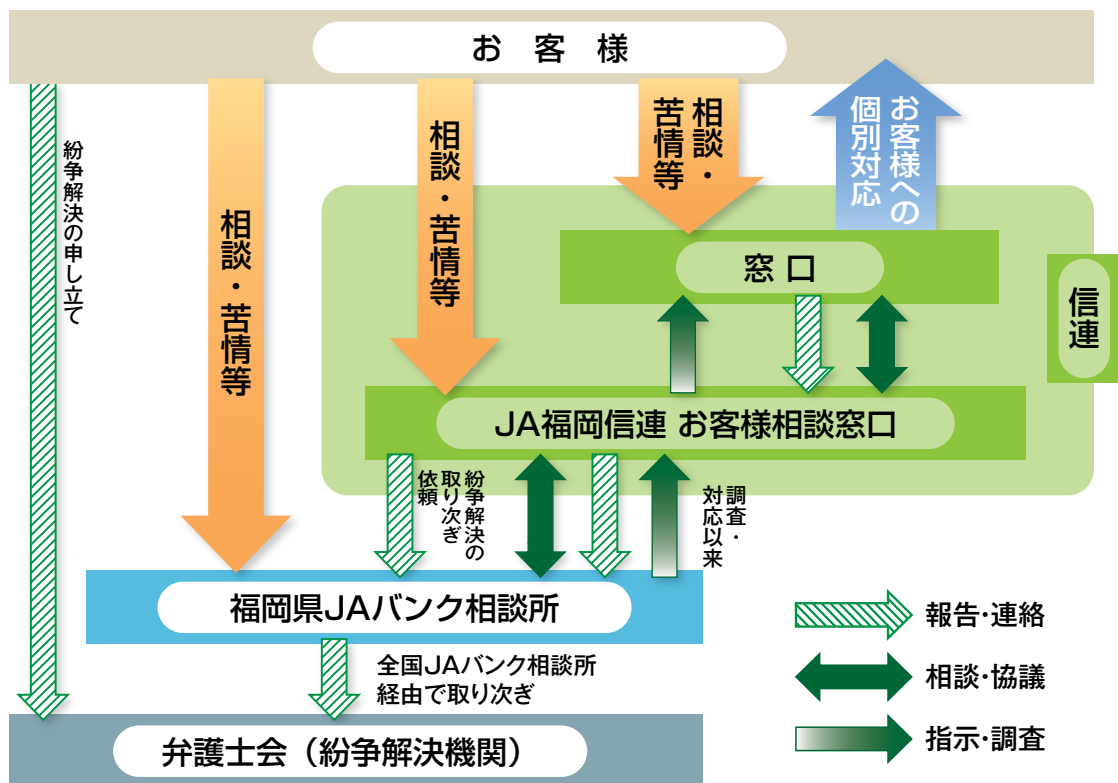


利用者保護等管理の取組み

当会では、会員・利用者の皆さま（利用者になろうとする方を含む）の正当な利益の保護と利便の確保のため、「利用者保護等管理方針」を遵守するとともに、会員・利用者の皆さまの保護と利便の向上に向けて継続的な取組みを行っています。

利用者保護等管理方針

1. 利用者に対する取引または金融商品の説明および情報提供を適切にかつ十分に行います。
2. 利用者からの相談・苦情等については、公正・迅速・誠実に対応し、利用者の理解と信頼が得られるよう適切にかつ十分に対応いたします。
3. 利用者に関する情報については、法令等に基づく適正かつ適法な手段による取得ならびに情報の紛失、漏洩および不正利用等の防止のための必要かつ適切な措置を講じます。
4. 当会が行う事業を外部に委託するにあたっては、利用者情報の管理や利用者への対応が適切に行われるよう努めます。
5. 当会との取引に伴い、当会の利用者の利益が不当に害されることのないよう、利益相反管理のための態勢整備に努めます。



●金融ADR制度への取組み

※ADRとは、Alternative Dispute Resolution の略

当会では、会員・利用者の皆さまの苦情等について迅速・公平・適切な解決をめざして、金融ADR制度（裁判外紛争解決制度）の取組みを行っています。

具体的には、苦情処理措置として、業務運営体制・内部規則等を整備のうえ、その内容をホームページ等で公表するとともに、JAバンク相談所とも連携し、迅速かつ適切な対応に努め、苦情等の解決を図ります。

当会の苦情等受付窓口

貯金・為替に関するお申出……………電話番号：092-711-3584

国債・投資信託に関するお申出…電話番号：092-711-3584

融資に関するお申出……………電話番号：092-711-3561

上記のほか下記の窓口でも受け付けます。

■ JA福岡信連・お客様相談窓口

電話番号：092-711-5047

受付時間：午前9時～午後5時(金融機関の休業日を除く)

■ 福岡県JAバンク相談所

電話番号：092-711-3855

受付時間：午前9時～午後5時(金融機関の休業日を除く)

また、紛争解決機関として、福岡県弁護士会紛争解決センター（天神弁護士センター・北九州法律相談センター・久留米法律相談センター）を利用しています。

■ 福岡県弁護士会紛争解決センター

天神弁護士センター

電話番号：092-741-3208

○受付時間/月～金曜日(午前9時～午後7時)
土・日・祝日(午前9時～午後1時)

北九州法律相談センター

電話番号：093-561-0360

○受付時間/月～金曜日(午前9時～午後12時、
午後1時～午後5時)

久留米法律相談センター

電話番号：0942-30-0144

○受付時間/月～金曜日(午前9時～午後5時)

反社会的勢力等への対応にかかる取組み

当会では、平成19年6月19日犯罪対策閣僚会議幹事会申合わせにおいて決定された「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」等を遵守し、反社会的勢力等に対して断固とした姿勢で臨むことを宣言しています。

また、マネー・ローンダリング等組織犯罪等の防止に取り組み、利用者の皆さまに組織犯罪等による被害が発生した場合には、被害者救済など必要な対応を講じます。

反社会的勢力等への対応に関する基本方針

1. 運営等

当会は、反社会的勢力等との取引排除および組織犯罪等の防止の重要性を認識し、適用となる法令等や政府指針を遵守するため、当会の特性に応じた体制を整備します。

また、適切な措置を適時に実施できるよう、役職員に指導・研修を実施し、反社会的勢力等との取引排除および組織犯罪等の防止について周知徹底を図ります。

2. 反社会的勢力等との決別

当会は、反社会的勢力等に対して取引関係を含めて、排除の姿勢をもって対応し、反社会的勢力による不当要求を拒絶します。

3. 組織的な対応

当会は、反社会的勢力等に対しては、組織的な対応を行い、職員の安全確保を最優先に行動します。

4. 外部専門機関との連携

当会は、警察、暴力追放運動推進センター、弁護士など、反社会的勢力等を排除するための各種活動を行っている外部専門機関等と密接な連携をもって、反社会的勢力等と対決します。

5. 取引時確認

当会は、犯罪による収益の移転防止に関する法律に基づく取引時確認について、適切な措置を適時に実施します。

6. 疑わしい取引の届出

当会は、疑わしい取引について、犯罪による収益の移転防止に関する法律に基づき、速やかに適切な措置を行い、速やかに行政庁に届出を行います。

利益相反管理の取組み

当会では、「利益相反管理方針」に基づき会員・利用者の皆さまの「利益相反のおそれのある取引」を適切に管理し、会員・利用者の皆さまの利益が不当に害されることのないよう、適切な態勢整備に努めています。

利益相反管理方針の概要

1. 対象取引の範囲
本方針の対象となる「利益相反のおそれのある取引」は、当会が行う信用事業関連業務および金融商品関連業務にかかる、利用者との取引であって、利用者の利益を不当に害するおそれのある取引をいいます。
2. 「利益相反のおそれのある取引」の類型化
「利益相反のおそれのある取引」の類型は、以下のとおりです。
・利用者との利益が相反する取引 ・当会の「利用者と他の利用者」との間の利益が相反する取引
3. 利益相反管理体制
当会は、「利益相反のおそれのある取引」の特定および利益相反管理に関する当会全体の管理体制を統括するため、利益相反管理統括者および統括部署を定めます。
4. 利益相反管理の方法
当会は、利益相反取引が発生する場合には、以下に記載する管理方法を選択するか、または複数を組み合わせて選択することにより、利益相反取引を適切に管理します。
・利用者との取引を行う業務部門の分離（情報共有の制限）
・利用者との取引条件または取引方法の変更
・複数の利用者のうち、いずれかの取引の中止
・利益相反の可能性があることに関する利用者への開示（利用者の同意）
5. 利益相反管理態勢の検証等
当会は、本方針に基づく利益相反管理態勢について、その適切性及び有効性を定期的に検証し、必要に応じて見直しを行います。
6. 研修・教育
当会は、役職員に対して、利益相反管理に係る研修・教育を継続的に実施し、利益相反管理にかかる意識の啓発に努めます。

金融商品の勧誘について

当会では、金融商品販売法の趣旨に則り、貯金その他の金融商品の販売等の勧誘にあたっては、「金融商品勧誘方針」に基づき、会員・利用者の皆さまの立場にたった勧誘に努めるとともに、より一層の信頼をいただけるよう努めています。

金融商品の勧誘方針

1. お客さまの利用目的ならびに知識、経験、財産の状況および意向を考慮のうえ、適切な金融商品の勧誘と情報提供を行います。
2. お客さまに対し、商品内容や当該商品のリスク内容など重要な事項を十分に理解していただくよう努めます。
3. 不確実な事項について断定的な判断の提供や事実でない情報を提供するなど、お客さまの誤解を招くような説明は行いません。
4. お約束のある場合を除き、お客さまにとって不都合と思われる時間帯での訪問・電話による勧誘は行いません。
5. お客さまに対し、適切な勧誘が行われるよう役職員の研修の充実に努めます。

個人情報の保護の取組み

当会では、会員・利用者の皆さまの個人情報を適正に取り扱うことが事業の基本であり社会的責任であることから、「個人情報保護方針」に基づき、会員・利用者の皆さまに一層の信頼をいただけるよう努めています。

個人情報保護方針

1. 関係法令等の遵守
当会は、利用者等の個人情報等を適正に取り扱うために、「個人情報の保護に関する法律」（以下「個人情報保護法」といいます。）および「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」（以下「番号法」といいます。）をはじめとする関係法令・ガイドライン等に加え、本保護方針に定めた事項および当会の諸規程を誠実に遵守します。
2. 利用目的
当会は、利用者等の個人情報等の取扱いにおいて、利用目的をできる限り特定したうえで、ご本人の個人情報等を取得するに当たっては、その利用目的を通知、公表または明示するとともに、その利用目的の達成に必要な範囲内において、これを取り扱います。
なお、番号法における個人番号等の利用等、特定の個人情報等の利用目的が法令等に基づき別途限定されている場合には、当該利用目的以外での取扱いはいたしません。
当会の個人情報等の利用目的は、当会の本所に掲示するとともに、ホームページ等に掲載しております。
3. 適正な取得
当会は、個人情報等を取得する際には、適正かつ適法な手段で取得いたします。
4. 安全管理措置
当会は、取り扱う個人情報等を利用目的の範囲内で正確かつ最新の内容に保つよう努めるとともに、漏えい等を防止するため、安全管理に関する必要かつ適切な措置を講じ、従業員および委託先（再委託先等も含みます。）を適正に監督します。
5. 第三者への提供
当会は、法令により例外として扱われるべき場合を除き、あらかじめご本人の同意を得ることなく、個人情報を第三者に提供しません。
なお、個人番号等につきましては、番号法に限定的に明記された場合を除き、第三者に提供いたしません。
6. 機微（センシティブ）情報の取扱い
当会は、ご本人の機微（センシティブ）情報（金融分野における個人情報保護に関するガイドラインで定める情報をいいます。）につきましては、法令等に基づく場合や業務遂行上必要な範囲においてご本人の同意をいただいた場合などの同ガイドラインに掲げる場合を除き、取得・利用・第三者提供はいたしません。
7. 匿名加工情報の取扱い
当会は、匿名加工情報（個人情報を個人情報の区分に応じて定められた措置を講じて特定の個人を識別することができないように加工して得られる個人に関する情報であって、当該個人情報を復元して特定の個人を再識別することができないようにしたものをいいます。）の取扱いにつきましては、関係法令・ガイドライン等に則して、安全管理に関する必要かつ適切な措置を講じます。
8. 開示・訂正等、利用停止等
当会は、保有個人データにつき、法令に基づきご本人からの開示・訂正等および利用停止等のお申し出につきましては、迅速かつ適切に応じます。
9. 継続的な改善
当会は、取り扱う個人情報等の保護のための取組みを継続的に見直し、その改善に努めます。
10. 苦情・ご意見・ご要望のお申し出
当会の個人情報等の取扱いに関する苦情・ご意見・ご要望につきましては、誠実かつ迅速に対応します。

社会的責任と地域貢献活動

地域に対する当会の考え方

当会は、福岡県を事業区域として、地元のJA等が会員となって、お互いに助け合い、お互いに発展していくことを共通の理念として運営している相互扶助型の農業専門金融機関であるとともに、地域経済の活性化に資する地域金融機関です。

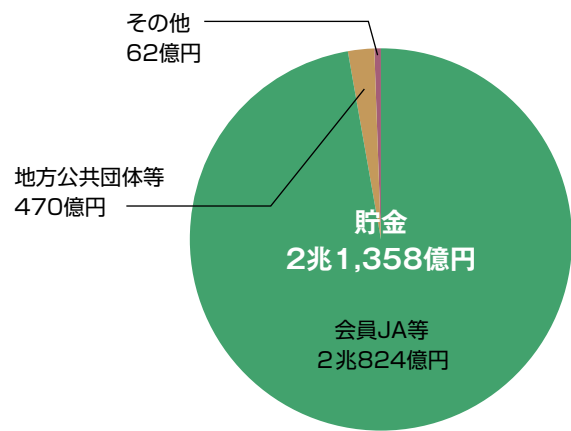
当会は、農家組合員および地域の皆さまの経済的・社会的地位の向上をめざし、JAとの強い絆とネットワークを形成することによりJA信用事業機能強化の支援を行うとともに、地域社会の一員として地域経済の持続的発展に努めています。

また、金融機能の提供にとどまらず、環境、文化、教育といった面も視野に入れ、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでいます。

地域からの資金調達の状況

● 貯金残高

当会の資金は、その大半が県下のJAにお預けいただいた農家組合員および地域の皆さまの大切な財産である貯金を源泉としています。平成30年3月末の譲渡性貯金を含めた貯金残高は、2兆1,358億円となりました。

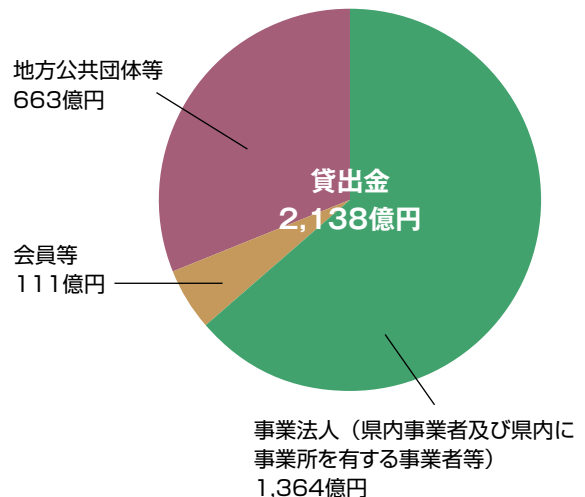


地域への資金供給の状況

● 貸出金残高

当会は、資金を必要とする農家組合員および地域の皆さまや、JA・農業に関連する企業・団体および県内の地場企業や、地方公共団体などにもご利用いただいています。

平成30年3月末の貸出金残高は、2,138億円となりました。



● 国の政策に基づく制度融資

地域の皆さまの生活支援のために、国の政策に基づく制度融資を取り扱っています。

資金の種類	資金の使いみちなど
住宅金融支援機構資金	個人住宅やアパート等を建設・購入する際に活用していただける資金です。
日本政策金融公庫の教育資金	ご家族の方の入学や在学の際に活用していただける資金です。

JAバンク福岡における地域密着型金融の取組状況(平成29年度)

JAバンク福岡(福岡県内JAおよび当会)では、農業と地域社会に貢献するため、JAバンク福岡中期戦略(平成28年度～平成30年度)に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでいます。

● 農業融資商品の適切な提供・開発

JAバンク福岡は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱を通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成30年3月末時点のJAバンク福岡の農業関係資金残高(注1)は34,443百万円、日本政策金融公庫等の受託貸付金(注2)残高は3,862百万円を取扱っています。

- 注) 1 農業関係資金とは、農業者、農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。
2 JAバンク福岡が窓口となり、日本政策金融公庫等の貸付金の受託取扱いを行っています。

■ 資金種類別貸出金残高

(単位:百万円)

種類	平成30年3月末残高
プロパー資金	27,351
農業制度資金	7,092
農業近代化資金	2,914
その他制度資金	4,178
合計	34,443

- 注) 1 プロパー資金とは、JAバンク原資資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
2 農業制度資金は、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンク福岡が低利で融資するものを対象としています。
3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金等が該当します。

■ 営農類型別農業資金残高

(単位:百万円)

種類	平成30年3月末残高
農業	23,228
耕作	1,124
野菜・園芸	2,554
果樹・樹園農業	624
工芸作物	137
養豚・肉牛・酪農	1,363
養鶏・養卵	404
養蚕	0
その他農業	17,022
農業関連団体等	11,215
合計	34,443

- 注) 1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられていない者および農業サービス業が含まれています。
2 「農業関連団体等」には、JAや全農(経済連)とその子会社等が含まれています。

■ 農業資金の受託貸付金残高

(単位:百万円)

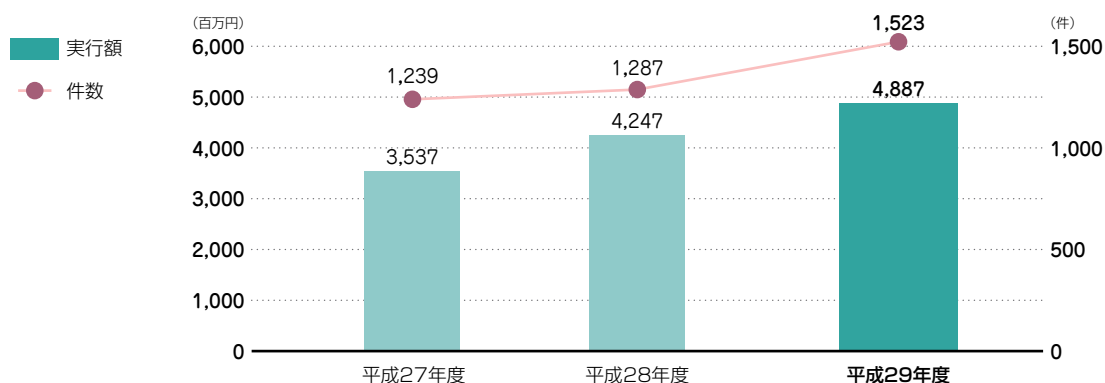
種類	平成30年3月末残高
日本政策金融公庫資金	3,862
その他	—
合計	3,862

- 注) 1 日本政策金融公庫資金は、農業(旧農林漁業金融公庫)にかかる資金をいいます。

■ JAバンク福岡の農業関連資金の推移(新規実行件数・新規実行額)

(単位:件、百万円)

農業関連資金	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	新規件数	新規実行額	新規件数	新規実行額	新規件数	新規実行額
	1,239	3,537	1,287	4,247	1,523	4,887



● 農業関連資金への利子助成等の取組み

JAバンクアグリ・エコサポート基金と連携し、厳しい経営環境に直面する多様な農業の担い手に対し、借入負担の軽減を図ることでそれぞれの農業経営がより成長していくことを目的に、平成19年度からJAが融資する農業関連の融資に対して利子助成を行っています。平成29年度は県内で3,086件の助成対応を行いました。

※JAバンクアグリ・エコサポート基金とは、JAバンクの社会貢献活動の一環として、農業振興や環境保全に貢献する事業を推進するために、農林中央金庫の基金拠出によって平成19年10月に設立されました。

● 「農業金融センター」の役割発揮・担い手のニーズに応えるための態勢整備

当センターは、農業融資専門部署としての役割発揮に向け、JAバンクの農業メインバンク機能強化をめざして、JAをはじめ関係団体（県、市町村、農業会議、JAグループ福岡、公益財団法人福岡県農業振興推進機構等）と連携し、担い手への金融支援を含めた農業関連融資への対応の強化に取り組んでいます。

また、県下JAに農業金融サービスの提供窓口として資金相談・農業経営相談等の役割発揮を担うため農業融資の実務に即した資格をもつ「農業金融プランナー」（平成30年4月1日時点で85名）や農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」（平成30年4月1日時点で20JA・33名）を配置し、担い手の相談等に対応できる体制を整備しています。

● 「JAグループ福岡担い手総合サポートセンター」の設置・取組み

平成28年4月1日に中央会・信連・全農ふくれんの共通機構として、「JAグループ福岡担い手総合サポートセンター」を設置しました。

所管業務が、県域TAC機能を含めたJAの出向く業務の支援、JAのTAC等との同行訪問の実施、農業経営管理支援や集落営農組織の法人化支援等に取り組んでいます。

※TACとは、Team for Agricultural Coordination の略

■ 担い手経営体・大規模法人等への支援内容

事業支援	① 運転資金・設備資金等の農業金融にかかる相談等 ② 農業所得増大・地域活性化応援プログラムを活用した事業支援の提案 ③ ファンドによる調達資金の相談対応 ④ 栽培技術支援 ⑤ マーケットインに基づく生産・販売の提案 ⑥ 生産コスト低減に向けた支援
会計・税務支援	① 決算資料作成支援 ② 会計税務の相談対応
体制支援	① 集落営農および個別経営体の法人化支援 ② 経営者向け共済（トップマンプラン）等
総合的な経営支援	① 経営コンサルティング（規模拡大・経営改善等）

農業者のライフステージに応じた支援

JAバンク福岡では、「農業者の所得増大」・「農業生産の拡大」・「地域活性化」の実現に向け、農業者のライフステージに応じた支援を行っています。

■ 農業者のライフステージ別の融資額（長期資金）

		新規就農	就農後	法人化 事業拡大	事業発展	継承再生		
		ライフステージ別の長期資金(残高)					その他の農業関連資金(残高)	
プロパー・ 制度資金	新規就農関連資金	222百万円					/	その他の農業関連資金 2,547百万円
			農業近代化資金 2,914百万円					
			農機ハウスローン 5,103百万円					
			その他農業者向け資金 9,848百万円					
日本公庫 受託資金	青年等就農資金	685百万円						
			農業経営基盤強化資金(スーパーL)				2,415百万円	

● 新規就農者の支援

JAバンク福岡では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、就農支援資金等を取扱っています。

■ 新規就農者をサポートする資金の取扱実績

(単位：件、百万円)

	平成29年度		平成30年3月末 残高
	実行件数	実行金額	
青年等就農資金	57	327	685
就農支援資金	0	0	182
その他	0	0	40
合計	57	327	907

● 農業者の経営改善支援

JAバンク福岡では、農業者の経営改善に向けて改善支援等に取り組んでいます。

■ 平成29年度の農業者の経営改善支援等の取組実績

(単位：先)

	期初経営改善				再生計画策定率 = a/A	ランクアップ率 = b/A
	支援取引先 A	Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変更しなかった先数 c		
正常先 ①	113	0	/	89	0.0%	/
要注意先	うちその他要注意先②	69	0	24	0.0%	34.8%
	うち要管理先③	0	0	0	-	-
破綻懸念先 ④	40	0	10	24	0.0%	25.0%
実質破綻先 ⑤	75	0	5	68	0.0%	6.7%
破綻先 ⑥	3	0	0	3	0.0%	0.0%
小計(②～⑥計)	187	0	39	128	0.0%	20.9%
合計	300	0	39	217	0.0%	13.0%

※期初経営改善支援取引先および債務者区分は平成30年3月末時点のものです。

● 農商工連携の推進（商談会・ビジネスマッチング）

■ ふくおか「農と商工の自慢の逸品」展示商談会の開催

ふくおか6次産業化・農商工連携推進協議会（構成団体：福岡県、福岡県商工会連合会、JA福岡中央会、JA福岡信連）では、6次産業化や農商工連携の取組みを積極的に推進しており、福岡県内各地で、農林漁業者自らが農林水産物を使用した6次化商品の開発や、農商工連携に取り組む商工業者による福岡県内農林水産物を活用した商品開発を進めています。

これらの農林漁業者や商工業者の自慢の逸品を一堂に集め、販売業者、卸売業者、飲食店等の実需者に対する販路開拓をめざし、平成30年1月26日に『ふくおか「農と商工の自慢の逸品」展示商談会～6次産業化・農商工連携マッチングフェア～』を開催しました。

展示・個別商談会では、福岡県内の農林漁業者及び商工業者84社がセラーとして出展し、個別商談バイヤー32社、フリーバイヤー58社と活発な商談・情報交流を行いました。

また、6次化商品の魅力を高め販売拡大を促進するために、商談会と同日開催で「福岡県6次化商品コンクール」を実施し、消費者から高く評価されている商品や、新規性や話題性に優れた商品を表彰しました。



展示商談会の様子



6次化商品コンクール表彰式の様子

■ 「JAグループ・JFグループ九州・沖縄 食の発信商談会」の開催

JAグループ・JFグループでは、農畜水産業者と企業が相互に利益を共有できる関係を構築し、6次産業化、農商工連携の促進を目的として、平成30年1月24日に福岡市内において「JAグループ・JFグループ九州・沖縄 食の発信商談会」を開催しました。

本商談会は、過去4回開催し、当日は生産者・加工業者等のセラー32団体と食品会社等のバイヤー6団体が参加しました。今回は、よりニーズに合う商談ができるように、バイヤーのニーズを事前にヒアリングし、セラー参加者を絞り込む商談会となりました。

また、商談会と併設して、農畜水産物の海外輸出を視野に入れた輸出相談ブースの設置や食品展示スペースを設置しました。



商談の様子



出展ブースの様子

●被災者等への支援

JAグループ福岡では、平成29年九州北部豪雨の被災者を支援するため、「JAグループ福岡災害対策本部」を設置したほか、日本政策金融公庫の農林漁業セーフティネット資金や農業施設等災害復旧資金を活用した低利資金の対応や個別融資先の経営状況に応じた償還条件の緩和等に対応しました。

■支援内容

(単位：件、百万円)

取組事例	JA名	内容	件数	貸付実行金額
九州北部豪雨被災者支援資金の対応	JA筑前あさくら	平成29年九州北部豪雨で農畜産物や農業施設の被害を受けた農業者に対し、利子補給を活用した低利資金の対応をしました。	203	411
	JAみい		3	3
	JA福岡信連	平成29年九州北部豪雨で農産物の被害を受けた農業者に対し、農林漁業セーフティネット資金を活用した低利資金の対応をしました。	17	67
合計			223	481

農産物輸出支援の取組みや担い手に適した資金の供給

●福岡県農産物輸出支援の取組み

農産物の国内需要が低迷するなか、福岡県とJAグループ福岡では、農産物等の戦略的な輸出拡大による攻めの農業への取組みを進めるために、平成20年12月に貿易会社「九州農産物通商株式会社」を設立しました。

平成29年度は、主力取引先である香港・台湾のほか、タイ、シンガポールの顧客への積極的な商談活動および国・県の事業を活用した体制構築によるネットワーク等に取り組み、売上高は625百万円となりました。

●「県産農林水産物輸出応援農商工連携ファンド」への支援

平成21年10月、福岡県特産の農林水産物の海外輸出を促進するため、福岡県は農商工連携に照準を合わせた「輸出応援ファンド」を設立しました。基金規模は20億円。助成対象は、規格外農産物等の加工等新商品開発、輸出の際の鮮度維持、輸送技術の改善、新規市場開拓支援等海外販売強化等を対象としており、平成29年度は2件の助成金交付対象事業を決定しています。

JAグループ福岡では、管理運営団体である公益財団法人福岡県農業振興推進機構への融資や運営等の支援を行っています。

農山漁村等地域の情報集積を活用した持続的な農山漁村等地域育成への貢献

●食・農への理解促進

JAバンク福岡では、子どもたちの食と農を促進するために、JAバンク食農教育応援事業を展開しています。



■教材本贈呈事業

食農教育を中心とする教育実践活動を通じ、子どもたちの農業に対する理解の深耕、農業ファンの拡大、および地域の発展に貢献することを目的に、平成20年度から、教材本を寄贈しています。

平成29年度版は福岡県内の小学校771校の5年生を対象に、「農業とわたしたちの暮らし」54,928冊の教材本を寄贈しました。

■教育活動助成事業

子どもたちに農業や自然環境、金融経済等に対する理解の促進を図ることを目的に、学校・地域とJAが連携して取り組む「食農教育」「環境教育」「金融経済教育」等にかかる活動費用の一部助成を行っており、平成29年度は、17,629千円の助成を行いました。



小学生による田植え体験学習

■夏休み作品コンクールの実施

福岡県内の小・中学校を対象に、お米・ごはん食や稲作など古くから日本の食卓と国土を豊かに作り上げてきた稲作農業全般と、お米・ごはん食が健康に結びつくことを見直してもらうとともに、次世代の子どもたちに稲作農業が果たす多面的な働きとお米・ごはん食の重要性、人々とのコミュニケーションづくりをはかることを目的に、JA福岡中央会と連携し実施しています。

信連理事長賞



「ひと休み」

築上町立椎田中学校3年生 白川 涼子さん



久留米市立金丸小学校1年生

吉福 ことはさん

● 中小企業等の経営支援に関する取組方針等

当会は、金融円滑化の重要性を十分認識し、「金融円滑化にかかる基本方針」に基づき、お客さまに対する経営相談・経営指導および経営改善に向けた取組みの積極的な支援を含め、金融円滑化に取り組んでいます。

金融円滑化にかかる基本方針

1. 当会は、お客さまからの新規融資や貸付条件の変更等の申込みがあった場合には、お客さまの特性および事業の状況を勘案しつつ、できる限り、真摯かつ丁寧に対応するよう努めます。
2. 当会は、事業を営むお客さまからの経営相談に積極的かつきめ細かく取り組み、お客さまの経営改善に向けた取り組みをご支援できるよう努めてまいります。
また、役員員に対する研修等により、上記の取組みへの対応能力を向上することに努めてまいります。
3. 当会は、お客さまから新規融資や貸付条件の変更等の相談・申込みがあった場合には、お客さまの経験等に応じて、説明および情報提供を適切かつ十分に行うように努めてまいります。
また、お断りさせていただく場合には、その理由を可能な限り具体的かつ丁寧に説明するよう努めます。
4. 当会は、お客さまからの、新規融資や貸付条件の変更等の相談・申込みに対する問い合わせ、相談及び苦情については、公正・迅速・誠実に対応し、お客さまの理解と信頼が得られるよう努めてまいります。
5. 当会は、お客さまからの新規融資や貸付条件の変更等の申込み、事業再生ADR手続の実施依頼の確認または地域経済活性化支援機構もしくは東日本大震災事業者再生支援機構からの債権買取申込み等の求めについて、関係する他の金融機関等（政府系金融機関等、信用保証協会等および中小企業再生支援協議会を含む。）と緊密な連携を図るよう努めてまいります。
また、これらの関係機関等から照会を受けた場合は、守秘義務に留意しつつ、お客様の同意を前提に情報交換しつつ連携に努めます。
6. 当会は、お客さまからの上述のような申込みに対し、円滑に措置をとることが出来るよう、必要な態勢を整備いたしております。
具体的には、
 - (1) 理事長以下、関係役員・部長を構成員とする「金融円滑化管理委員会」を設置し、金融円滑化にかかる対応を一元的に管理し、組織横断的に協議します。
 - (2) 各融資窓口「金融円滑化管理責任者」、「金融円滑化担当者」を設置し、各融資窓口における金融円滑化の方針や施策の徹底に努めます。
7. 当会は、本方針に基づく金融円滑化管理態勢について、その適切性および有効性を定期的に検証し、必要に応じて見直しを行います。

平成26年2月から適用開始された「経営者保証に関するガイドライン」への対応については、ガイドラインの趣旨に則り、個別案件毎に判断し、個人保証に頼らない融資の確立に取り組んでいます。

「経営者保証に関するガイドライン」への対応について

この度、経営者保証に関するガイドライン研究会（全国銀行協会および日本商工会議所）が公表した「経営者保証に関するガイドライン」を踏まえ、当会は、本ガイドラインを尊重し、遵守するための態勢整備を実施いたしました。

当会は、今後、お客様との保証契約を締結する場合、また、保証人のお客様が本ガイドラインに則した保証債務の整理を申し立てられた場合は、本ガイドラインに基づき、誠実に対応するよう努めてまいります。

文化的・社会的貢献活動に関する事項

● 環境保全・地域社会貢献への取組み

■ 水源の森基金への募金

JAバンク福岡では、平成17年度から対象貯金商品の販売実績に応じた額（販売一口につき20円）とJAご利用の皆さまからの募金を「公益財団法人福岡県水源の森基金」へ「緑の募金」として寄付を行っています。

平成29年4月には、これまでの環境保全取組みに貢献した功績が認められ、林野庁長官より「感謝状」の贈呈を受けました。



水源の森基金への寄付



林野庁長官「感謝状」贈呈式



● 地元企業の活性化の取組み

当会では、融資先企業等を対象とした「信連会」を組織しており、セミナー等の開催を通じ、融資先企業の活性化と相互交流を支援しています。

● 高齢化社会への取組み

■ 幅広い年金相談への対応

JAバンク福岡では、「年金相談会」を開催し、新規に年金を受け取られる方への受給手続きや、働きながら年金を受給できる在職老齢年金などに関する幅広い相談に対応しています。平成29年度は212回の年金相談会を開催しました。



グラウンド・ゴルフ親善大会

■ 「JA年金友の会」組織の構築・運営

JAバンク福岡では、県内JAで年金をお受け取りいただいている197,320人（平成30年3月末現在）の皆さまによるJA年金友の会組織を構築・運営し、旅行や観劇、スポーツ等さまざまなイベントを開催し、会員の方々のいきがいや仲間づくりのお手伝いをしています。

● スポーツを通じた地域密着の取組み

■ 全日本大学駅伝への特別協賛

JAバンクは、箱根・出雲と並ぶ学生3大駅伝のひとつである「全日本大学駅伝」に特別協賛しました。

JAバンク福岡は九州地区予選大会で大会運営のサポート、選手への応援を実施しました。



全日本大学駅伝ポスター



■ スポーツの総合祭典

市町村対抗「福岡駅伝」への特別協賛

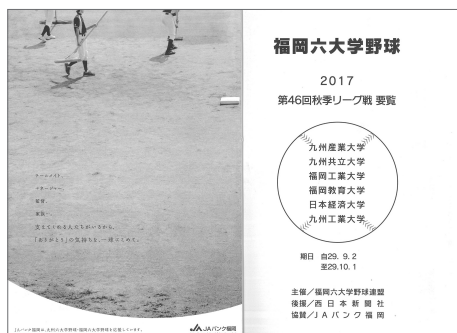
JAバンク福岡では、広く県民の間にスポーツを振興し、その普及発展とスポーツ精神の高揚を図り、一層健康で明朗な県民生活の確立に寄与するため「平成29年度福岡駅伝」に特別協賛しました。

■ 地元大学野球リーグへの特別協賛

JAバンク福岡では、地元スポーツの振興を応援するために、「福岡六大学野球リーグ」・「九州六大学野球リーグ」に特別協賛しました。



「福岡六大学野球リーグ」・「九州六大学野球リーグ」表彰式



福岡六大学野球2017秋季リーグ戦パンフレット



九州六大学野球2017秋季リーグ戦パンフレット

業務のご案内

貯金業務

当会の貯金は、会員であるJAはもとより、地方公共団体、取引先企業や地域の皆さまから貯金をお預かりしています。貯金の種類といたしまして、当座貯金、普通貯金、定期貯金、譲渡性貯金など各種の商品をご用意し、目的・期間・金額に合わせてご利用いただいています。

また、全国農協貯金ネットサービスにより、全国のJAのATM等でお預け入れ、お引き出し、残高照会ができるほか、「全国キャッシュサービス(MICS)」に加盟の提携金融機関およびゆうちょ銀行、セブン銀行、ローソン、イーネットのCD・ATMで現金のお引き出し、残高照会がご利用いただけます。さらに、ICチップを搭載したICキャッシュカードをご用意し、偽造キャッシュカードによる被害防止対策に取り組んでいます。



— 主な取扱商品

貯金の種類	しくみと特色	期 間	お預け入れ金額	
総合口座	一冊の通帳で「貯める」「受け取る」「支払う」「借りる」の機能を備えた口座です。キャッシュカードやJAカードなどを合わせてご利用になりますといっそう便利です。			
	普通貯金	出し入れ自由で、毎日の暮らしの財布替わりとしてご利用いただける便利な貯金です。公共料金等の各種自動支払い口座として、また給与・年金の自動受取口座として最適です。	期間の制限はありません。	1円以上
定期貯金	期日指定定期貯金、スーパー定期貯金、大口定期貯金、変動金利定期貯金等がセットできます。また、自動融資(定期貯金残高の90%以内、最高500万円まで)もご利用いただけます。	各貯金の種類に準じます(下欄参照)。	各貯金の種類に準じます(下欄参照)。	
定期貯金	期日指定定期貯金	1年ごとの複利計算で有利に増やせます。しかも1年経過後はお引き出し自由、一部のお引き出しもできます。	最長3年	1円以上300万円未満
	スーパ一定期貯金	金利は、お預けいただいた時点の金利情勢により決めさせていただきます。確定利回り、お預け入れ期間は1カ月から5年まで自由にお選びいただけます。	1カ月以上5年以内	1円以上
	大口定期貯金	大口の資金運用に適した高利回りの貯金です。金利は、お預けいただいた時点の金利情勢により決めさせていただきます。	1カ月以上5年以内	1千万円以上
	変動金利定期貯金	お預け入れ日から6カ月ごとに、その時点の金利情勢によって金利が変動する貯金です。自動継続もご利用いただけます。	1年以上3年以内	1円以上
	積立定期貯金	結婚や入学など、計画に合わせた着実な資金づくりに最適な貯金です。満期日を定めない「エンドレス型」、満期日を指定して積み立てする「満期指定型」があります。	6カ月以上3年以内(満期指定型)	1千円以上
当座貯金	小切手・手形をご利用いただく場合に便利な貯金です。	期間の制限はありません。	1円以上	
普通貯金	出し入れ自由で、毎日の暮らしの財布替わりとしてご利用いただける便利な貯金です。	期間の制限はありません。	1円以上	
通知貯金	まとまった資金の短期運用にご利用いただけます。	7日以上	5万円以上	
譲渡性貯金(NCD)	大口資金を高利回りで運用できます。また、満期前に譲渡できます。	1週間超5年以内	1千万円以上	

融資業務

当会は、会員の方への貸出をはじめ、地域の皆さまの暮らしや、農業者・事業者の皆さまの事業に必要な資金をご融資しています。

また、地方公共団体、農業関連産業などの貸出も行い、地域経済の質的向上や農業の振興はもとより、地域社会の発展のために貢献しています。



— 主な取扱商品

融資の種類	ご融資先	資金使途	ご融資額	ご融資期間およびご返済方法	担保保証
一般的な融資	法人・個人の皆様	設備資金 運転資金	ご相談に応じて 決定します。	資金使途等に応じて ご相談のうえ決定します。	必要に応じて提供 させていただきます。

注) 上記は一般的なご融資の場合ですので、個別のご融資相談については融資窓口でお尋ねください。

受託・代理業務

当会は、株式会社日本政策金融公庫の受託金融機関として、農業者、農業経営体および農業関連団体の皆さまに、農業改良、農業生産力維持増進等に必要な長期・低利資金のご融資や、地域の皆さまにご子弟の進学のための教育資金の取扱いを行っています。

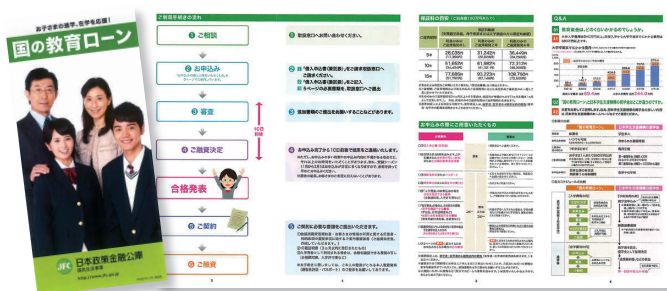
また、独立行政法人住宅金融支援機構の受託金融機関として、住宅関連制度資金（フラット35等）の取扱いを行っています。

さらに、資産運用の相談などのニーズにお応えするため、農林中央金庫および農中信託銀行の代理店業務を行っています。



住宅金融支援機構
(フラット35)

業務のご案内



日本政策金融公庫（国の教育ローン）



日本政策金融公庫（農業資金）

— 主な取扱資金

融資の種類	ご融資内容	ご融資金額	ご返済期間およびご返済方法
日本政策金融公庫	農業資金	資金種類ごとの 限度額以内でご 相談のうえ決定 します。	資金種類ごとの償 還期限以内でご相 談のうえ決定しま す。
	教育資金		
住宅金融支援機構	新築住宅の建築・購入、中古住宅の購入などにご利用いただくための資金をお取り扱いしています。		

為替・振替決済業務

当会は、内国為替取扱金融機関の一員として、全国の各JAおよび各金融機関との間で、送金・振込・代金取立等の為替業務を取り扱っています。また、給与・年金の口座振込等および各種口座振替業務にともなう資金決済を行っています。

福岡県指定代理金融機関業務

当会は、福岡県指定代理金融機関として、県公金の取扱いを行っています。

国債・投資信託窓口販売業務

当会は、お客さまの幅広い資産運用ニーズにお応えするため、国債（新窓販国債・個人向け国債）および証券投資信託の窓口販売業務を行っています。

— 主な取扱商品

種類	特色	期間	売単位
国債窓口販売	資金を安全・確実・有利に運用できる商品です。	利付国債 2年・5年・10年	5万円以上5万円単位
		個人向け国債 3年・5年・10年	1万円以上1万円単位
証券投資信託 窓口販売	農林中金全連アセットマネジメント株式会社が設定する投信を中心に商品を取り扱っています。 ※投信は貯金と異なり、元本・利息の保証はありません。		

推進・指導・研修相談業務

当会は、農家組合員・地域の皆さまにより質の高い金融サービスを提供できるよう、JAの金融機能の充実、体制整備の強化や新商品の企画・開発、さらには新聞等のマスメディアを媒体とするPR活動等により、JA信用事業の推進支援に取り組んでいます。

また、信頼されるJAバンクづくりのため、JAからの税務・年金・法務等の相談対応、JA職員向け各種研修会の実施等を通じて、お客さまのさまざまな相談に応えられる人材育成に取り組んでいます。



JAローン祭り



冬期貯蓄推進取組



夏期貯蓄推進取組



年金口座指定キャンペーン

その他のサービス業務

当会は、農家組合員・地域の皆さま、一般企業・団体の皆さまの幅広いニーズにお応えするため、各種サービスをご用意しています。

— その他の各種サービス

種 類	内 容
内 国 為 替 サービス	全国どこの金融機関にも、ご送金・お振り込み・お取り立てを行っております。
JAキャッシュサービス	当会のキャッシュカードで全国のJA・信連・農林中金・都銀・地銀・第二地銀・信金・信組・労金・ゆうちょ銀行・セブン銀行・ローソン・イーネットのCD・ATMで、現金のお引き出し、残高照会がご利用いただけます。また、全国のJA・信連・農林中金・ゆうちょ銀行・セブン銀行・ローソン・イーネットのATMでは現金のお預け入れもできます。
給 与 振 込 サービス	給与・ボーナスがお客さまのご指定いただいた貯金口座に自動的に振り込まれます。振り込まれた資金はキャッシュカード等により必要なときにお引き出しいただけます。
各種自動受取サービス	国民年金・厚生年金等各種年金、配当金などがお客さまの口座に自動的に振り込まれます。その都度お受け取りに出かけられる手間も省け、期日忘れのご心配もありません。
各種自動支払サービス	電気・電話・NHK等公共料金のほか、県立高校授業料、各種クレジット代金など、ご指定いただいた貯金口座から自動的にお支払いいたしますので、払い込みのわずらわしさがなくなります。
JAネットバンク (個人のお客向け)	窓口やATMに行かなくても、お手持ちのインターネットに接続されているパソコン・携帯電話・スマートフォンから、残高照会や振込・振替などの各種サービスをご利用いただけます。 
法人JAネットバンク (法人のお客向け)	窓口に行かなくても、インターネットに接続されているオフィスのパソコンから、残高照会・入出金明細照会に加え、振込や振替の資金移動、口座振替データや、総合振込・給与振込による複数件のお振込データを1回の操作でまとめてご依頼できる伝送サービスなど、豊富なサービスをご利用いただけます。 
ファームバンキング (法人のお客向け)	窓口に行かなくても、お客様のパソコンと当会のコンピュータを通信回線で接続することにより、残高照会や振込・振替などの各種サービスがご利用いただけます。
クレジットカード (JAカード)	JAカードはJA独自の特典を備えた「JAならではの」クレジットカードです。ご旅行・お買い物・お食事などにご利用いただける他、現金が必要なときのキャッシングサービス、携帯電話料金および公共料金（一部を除く）のお支払いにもご利用いただけます。更にお得なサービスが受けられるゴールドカード、ロードアシスタンスサービス付カードのお取り扱いもしております。また、ICキャッシュカード機能とクレジット機能が一枚になった便利なJAカード（一体型）もご用意しております。 
デビットカード	「J-Debit」のマークのある全国の加盟店で、現在お手持ちのキャッシュカードがそのままお買い物に利用できます。新たな申込み手続きや手数料・年会費は一切不要です。現金を持たずにお買い物・お支払いができますのでたいへん便利です。 
でんさいサービス	「でんさい」とは、一般社団法人全国銀行協会が設立した株式会社全銀電子債権ネットワーク（でんさいネット）で取り扱われる電子記録債権のことで、手形や振込に比べ資金決済が安全で円滑に行えるサービスです。 ※でんさいサービスのご利用は、「法人JAネットバンク」のご契約が必要です。
少額投資非課税制度 (NISA)	当会取扱の公募株式投資信託に最長5年、最大600万円までNISAまたは、最長20年、最大800万円までつみたてNISAをご利用いただけます。
小規模企業共済業務	独立行政法人中小企業基盤整備機構の代理店として、平成30年4月より小規模企業共済のお取扱いを開始しております。

注) JAネットバンク・法人JAネットバンクでは、高度な暗号化技術（SSL 128bit）を採用して、お客様の大切な情報が他人に盗まれたり、偽造・改ざんされたりしないようにセキュリティの確保・維持に努めています。また、サービス利用時のご本人のご確認についても、複数のパスワードを利用し、他人の不正利用を防止しています。

各種手数料

各種手数料一覧

貯金に関する手数料

項 目		手数料
再発行手数料（1件につき）	通 帳	1,080円
	証 書	1,080円
	キャッシュカード	1,080円
自己宛小切手の発行（1枚につき）		540円
貯金・融資残高証明書発行手数料（1通につき）	継続発行	324円
	随時発行	540円
手形・小切手交付手数料（店頭交付）	小切手帳（1冊／50枚）（署名鑑なし）	648円
	小切手帳（1冊／50枚）（署名鑑あり）	756円
	約束手形帳（1冊／25枚）（署名鑑なし）	864円
	約束手形帳（1冊／25枚）（署名鑑あり）	1,080円
	為替手形帳（1冊／25枚）	864円
署名鑑登録・変更手数料（1取引先につき）		5,400円

（脚注）上記手数料には消費税（8%）が含まれています。

融資に関する手数料

項 目		手数料(1案件あたり)		
不動産担保の 取扱い（抵当 権の設定関係）	新規設定 極度額増額 登記留保 追加設定	54,000円		
	極度額減額 順位変更 一部解除 一部譲渡 担保差換え	16,200円		
	追 加 手数料	複数の法務局で共同担保設定する場合	法務局が1カ所増える毎に 10,800円	
		県外の物件に担保設定する場合	1設定につき	32,400円
			法務局が1カ所増える毎に	32,400円

（脚注）土地収用法に基づく変更は、除く。上記手数料には消費税（8%）が含まれています。

為替に関する手数料

項 目		手 数 料						
ご 利 用 形 態		当会自店宛	県内JA宛	県外系統宛	他 行 宛			
振込手数料	窓口利用	テレ振込	3万円以上	162円	540円	540円	864円	
			3万円未満	162円	324円	324円	648円	
		文書振込	3万円以上		540円	540円	756円	
			3万円未満		324円	324円	540円	
	JAネットバンク利用		3万円以上	無 料	216円	324円	432円	
			3万円未満	無 料	108円	216円	324円	
			1万円未満	無 料	108円	216円	324円	
		法人JAネットバンク利用	振込・振替	3万円以上	無 料	216円	324円	540円
				3万円未満	無 料	108円	216円	324円
			総合振込	3万円以上	無 料	216円	324円	540円
	ファームバンキング利用		3万円以上	162円	162円	162円	648円	
			3万円未満	162円	162円	162円	432円	
	代金取立手数料（1通につき）		普通扱い 864円		至急扱い 1,080円			

（脚注）上記手数料には消費税（8%）が含まれています。

サービス業務に関する手数料

項目		手数料
ファームバンキングFAX利用料	月額	1,080円
ファームバンキングホームユース端末利用料	月額	1,080円
ファームバンキングパソコン利用料	月額	4,320円
法人JAネットバンク基本サービス（照会・振込サービス）	月額	1,080円
法人JAネットバンク基本サービス+データ伝送サービス	月額	3,240円

（脚注）上記手数料には消費税（8%）が含まれています。

でんさいに関する手数料

（法人ネットバンクを通じたご依頼）

項目	1件あたり手数料		
	同一店内宛	系統宛	他行宛
発生記録	債務者請求	324円	648円
	債権者請求	324円	648円
譲渡記録	324円	324円	648円
分割（譲渡）記録	324円	324円	648円
変更記録		216円	
保証記録		216円	
支払等記録		216円	

（脚注）上記手数料には消費税（8%）が含まれています。

その他の諸手数料

項目		手数料
国債等窓販にかかる口座管理手数料	1ヵ月につき	108円
JAフラット35貸付手数料（Aタイプ）	1件につき	融資額×1.5%
JAフラット35貸付手数料（Bタイプ）	1件につき	54,000円

（脚注）上記手数料には消費税（8%）が含まれています。

組織と機構

当会の組織

役員

(平成30年6月29日現在)

	役 名	氏 名
経営管理委員	経営管理委員会会長	鬼 木 晴 人 (JA福岡市)
	経営管理委員	三 島 公 陽 (JAたがわ)
	経営管理委員	添 島 喜 久 (JA福岡大城)
	経営管理委員	白 水 清 博 (JA筑紫)
	経営管理委員	時 本 数 章 (JA福岡京築)
	経営管理委員	鵜 木 高 春 (JAふくおか八女)
理 事	代表理事理事長	中 野 裕 之
	代表理事専務	梅 野 邦 彦
	常務理事	平 田 徳 光
	常務理事	久 富 慎 一 郎
監 事	代表監事	大 塚 和 徳 (JAふくおか嘉穂)
	常任監事	永 沼 俊 輔
	監 事	山 崎 重 俊 (JA糸島)
	監 事	右 田 英 訓 (JAにじ)
	員 外 監 事	山 本 明

■ 経営管理委員会

会員であるJAの意思反映を円滑に行うため、経営の基本事項について決定する機関です。また、理事会等について監督する機能を持っています。

■ 理事会

実務に精通した常勤理事により、機動的な業務運営を行うための業務執行機関です。

■ 監事会

当会の業務運営状況について監査する機関です。また、経営管理委員および理事の業務に対して監督する機能を持っています。

会 員

(単位：人)

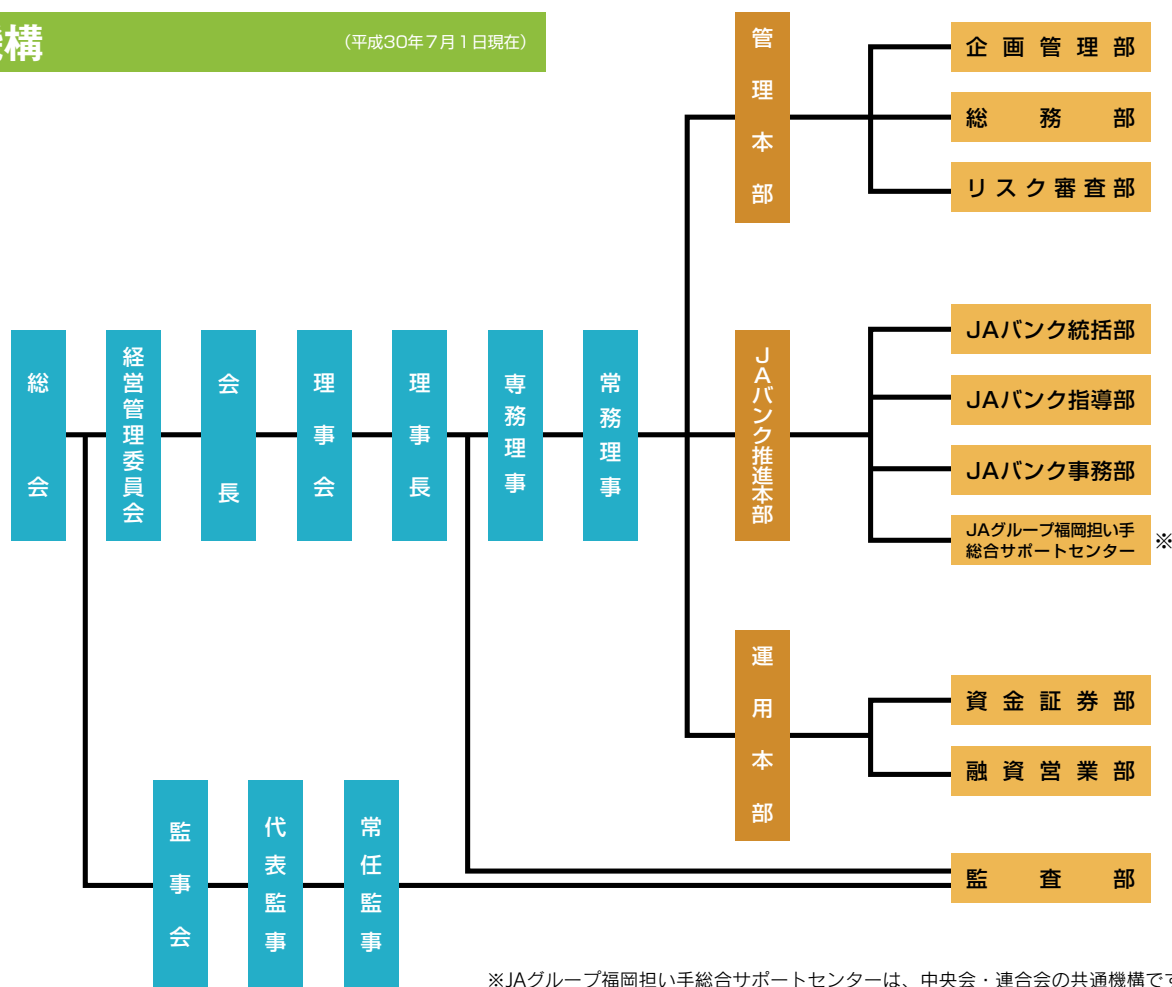
資 格 別	28年度末	29年度末
正 会 員	29	28
准 会 員	21	21
合 計	50	49

職 員

(単位：人)

資 格 別	28年度末	29年度末
男 子 職 員	95	93
女 子 職 員	63	63
嘱託常よう人	8	6
合 計	166	162

機構 (平成30年7月1日現在)



店舗

(平成30年7月1日現在)

店舗名	所在地	代表電話番号
本所	福岡市中央区天神4丁目10番12号	092-711-3535

自動化機器 (ATM) の設置状況

(平成30年7月1日現在)

	店舗内	店舗外	合計
JA・信連設置台数	227	84 (うち信連1)	311

関連会社

(平成30年7月1日現在)

名称	所在地	設立	資本金	出資比率	業務内容
(株)九州地区農協オンラインセンター	福岡市南区 横手2-13-35	昭和52年 10月1日	85億円	16.55%	1. 計算事務・情報提供サービス業務の受託 2. ソフトウェアの開発・販売 3. 施設の賃貸ならびに受託管理等の事業 4. 前各号に付帯する一切の業務

● 特定信用事業代理業者の状況

該当する取引はありません。

沿革・歩み

大正	7年	<ul style="list-style-type: none"> ・当会のルーツとなる「福岡県信用組合联合会」営業開始
昭和	17年 18年 23年 28年 29年 33年 34年 38年 39年 41年 48年 50年 52年 53年 56年 57年 59年 62年 63年	<ul style="list-style-type: none"> ・「保証責任福岡県信用購買販売利用組合联合会」に組織変更 ・農業団体法公布により「福岡県農業会」に組織変更 ・昭和22年の農業協同組合法の公布により「福岡県信用農業協同組合連合会」を設立 ・県内農協貯金100億円を達成 ・農林漁業金融公庫と業務委託契約を締結 ・「福岡県農協振興基金協会」（現在の福岡県農業信用基金協会）を設立 ・農林中央金庫と為替業務の代理契約を締結 ・住宅金融公庫（現在の住宅金融支援機構）と業務委託契約を締結 ・全国農協貯金者保護制度福岡県要綱を設定 ・県内農協貯金1,000億円を達成 ・農林水産業協同組合貯金保険機構へ加入 ・国庫金年金取り扱い開始 ・「九州地区農協オンラインセンター」を設立 ・国民金融公庫（現在の日本政策金融公庫）と進学資金の貸付業務委託契約を締結 ・県内農協貯金1兆円を達成 ・県内農協貯金ネットサービスおよびCD稼働 ・系統代替オンラインシステム稼働、全銀内為制度に農協加盟 ・県内金融機関とCD提携（FCC） ・当会の資金量1兆円を突破
平成	3年 5年 6年 8年 10年 11年 12年 13年 14年 15年 16年 17年 18年 19年 20年 21年 23年 26年 27年 28年	<ul style="list-style-type: none"> ・県の指定代理金融機関業務取り扱い開始 ・九州金融ネットワーク（Qネット）設立参加・サービス取り扱い開始 ・「農協系統信用システム共同運営株式会社（愛称JASTEM）」の設立 ・当会業務としての国債の窓口販売業務開始 ・九州地区農協オンライン新システムの稼働 ・愛称「JAバンク」の導入 ・「コープファイナンス福岡」を設立 ・信託代理業務の取り扱い開始 ・証券投資信託等の受益証券の窓口販売業務開始 ・「JAのひばり定期」を企画、県内JAで発売 ・県内JA貯金2兆円を達成 ・JAネットバンク取り扱い開始 ・「JAバンク福岡メールセンター」業務開始 ・経営管理委員会制度の導入 ・「JAバンク福岡事務集中センター」業務開始 ・系統サービサー福岡営業所開設 ・「コープファイナンス福岡」清算終了 ・「森づくり定期」を企画、県内JAで発売 ・ICキャッシュカード取り扱い開始 ・「JAバンク福岡農業融資センター（現在の農業金融センター）」業務開始 ・セブン銀行とのATM提携 ・県内JA個人貯金2兆円を達成 ・「福岡県農産物通商株式会社（現在の九州農産物通商株式会社）」設立参画 ・「福岡県産農林水産物輸出応援農工商連携ファンド」への資金拠出 ・新JASTEMシステムへ移行 ・法人JAネットバンク取り扱い開始 ・でんさいサービス取り扱い開始 ・中央会・連合会の共通機構「JAグループ福岡担い手総合サポートセンター」を設置 ・「JAバンク福岡 農業所得増大・地域活性化応援プログラム」の取組開始 ・JAバンク福岡定期貯金「燦★さん」を県内JAで発売 ・系統サービサー福岡営業所閉所（系統サービサー西日本支店へ業務移管）